

平成26年11月18日

新見市議会議長 殿

報告者名
 文教福祉常任委員会
 委員長 杉本 美智子

市議会一般会議実施報告書

開催日時	平成26年11月11日(火) 19時00分～21時00分
開催場所	正田ふれあいセンター
団体名 代表者名 参加者数	正田地域振興会 会長 林 司朗 正田小学校PTA 会長 井関 秀文 10人
出席議員	杉本美智子・小河俊文・坂東義生・山本昌次・塩飽満路 橋本亨子・仲田康豊
意見交換の 内 容	司会 小河俊文 進行 杉本美智子 1. 開会あいさつ 文教福祉常任委員会委員長 杉本美智子 2. 団体あいさつ 正田地域振興会会長 林 司朗 3. 出席者自己紹介 4. 意見交換(内容は別紙) 5. 閉会あいさつ 正田小学校PTA会長 井関秀文
議員間自由 討議の内容	なし
備 考	

意見交換の内容

テーマ：正田小学校統廃合計画について

① 統合についてのこれまでの経過・現状について

正田地域振興会・正田小学校PTA	出席議員の意見
<p>(正田地域振興会理事が「正田小学校統廃合問題の経過」について資料により説明)</p> <ul style="list-style-type: none">凍結を求める陳情書は、PTA、振興会他10団体で出した。存続を求める要望書は存続を求める会で出した。存続を求める会は、検討委員会で続けてきた活動を引き継ぐ形で行っている。振興会の中でも様々な考えがあり、陳情書と要望書をそれぞれ出すこととなった。平成22年に南小学校の校名と校歌の話し合いをすることになり、正田小学校PTAと振興会でいろいろ話をした。その際にも教育委員会は統合は強制的にはやらないと言い、我々も人数が少なくなった時には南小学校に行くことを表明していた。人数が少なくなれば行くようになる。振興会は地区を二分することはやりたくない。地区を支えることをやりたいという考えであった。一旦けりがついたと思っていたら急に28年度からと言ってきたので慌てているいろいろな会ができて今に至っている。60人から70人くらいと考えている。現在は100人程度いる。これまではずっと90から110人で推移してきている。今は地元の人が少ないようになってきて、警察官舎や雇用促進住宅、アメニティーヒルが建設され、土地が住宅になって今に至っている。何度も波を繰り返しながら来ているが、その都度振興会としてどうすればいいかを考え、ここの人口を保っている。これが保てなくなったらどうしても統合をしなければ子どもも親も大変になる。今は人数がいるので、自分の子どもたちが嫌な思いをしてまでも別の学校に通わせたくない。	<ul style="list-style-type: none">凍結を求める陳情書と存続を求める要望書は同じ団体が出したのか。凍結を求めるという部分で、児童数が少なくなればいずれ統合するということが、児童数についてはどのくらいで統合するか協議はしているのか。

- ・何年先を目途に凍結をするというのではなく、人数がいる今なぜ統合をしなければいけないのかということである。雇用促進住宅が平成32年度で閉鎖になるが、跡地がどうなるかなどの様々な問題がある。住宅地や店舗などが考えられ、正田に人数がいれば子どもの人数もそのままということも考えられる。横路にも新築を考えている人もおり、今後そういう人が出てくれば人数も増えるのではないかと思っている。振興会とすれば増やす努力もしなければならない。

- ・正田地域の人が750人で正田地域住民の60パーセントを超える。

- ・教育委員会と市長に陳情書等を持っていったが、教育委員会は統廃合計画に沿ってやっているとのことであり、市長は教育委員会が決めて議決を経ているとのことであった。私たちは納得がいていない。決められてやっているということに対して何も話し合いが進まない。誰に民意を持っていけばいいのかわからない。平成13年の統廃合計画は正田への統合が議決されたのか又はどこでもいいので4校が統合すると決められたのか、それが見えない。

- ・凍結がされた場合、平成32年に82人になることを考えると、32年までの期間に思いがあって凍結を求めているのか。人数が少なくなって統合せざるを得ないというところまでの期間を考えているのか。

- ・10月16日に存続を求める要望書を出され、署名が3,693人あるがそのうち正田地域の人が何人で、何パーセントになるのか。

- ・平成13年12月議会で議決した。議会内に学校統廃合調査特別委員会を設置し、協議を重ねた結果として統廃合年次計画により正田小学校へ3校が統合するという議決であった。その後議決された事項を変更するという協議は一切ない。

- ・当初計画の変更を求めていかなければいけなかった。

- ・今の学校のことについて議案として出るのは今からであるが、平成13年に正田小学校への統合は議決している。南小学校へ正田小学校が統合するというのはまだこれからである。

- 平成28年に統合するのなら教育委員がもっと説明すべき。住民の合意がとれていない段階で統合すべきではない。

- 教育委員会は統合ありきで話をしている。耐震はやらないといっているが災害はいつやってくるかわからない。どの程度もつものか耐震診断はすべき。保護者や子どもに安心感を持たせるためにもやって欲しい。行動し、それから後話をすべきだ。

- 耐震は平成13年の統廃合計画ではどこにもうたっていない。これから複式になる学校や人数が少なくなる学校について統廃合の話が出ていた。今年1月になって耐震化ができないので統合しなさいと言われていた。耐震と統合を一緒に言っているが、教育委員会は見返りを求めるのではなく、耐震と教育は別に考えなければいけない。統廃合計画にあるから耐震はしないということだが、これでは話が進まない。教育委員会の考えをどう思うか。

- 広瀬地区は唐松小学校区であったのでアンケートは実施していない。

- 学校は未来に対する投資である。新見市を支える子どもを育てるのは新見市としても教育委員会としても当然であり、そこにお金をかけないのはどうかなと思っている。耐震については、教育委員会は平成28年3月までに全部の耐震化を済ませると言っている。その中には正田小学校は入っていない。

- 28年4月までには統合すると教育委員会事務局が言っているが、これから2年間は耐震診断も何もしないまま子どもを学ばすのか。もし東北大震災のようなことがあった場合どうするのかと聞いても何も答えがなかった。
小さい学校へ大きい学校に行くということについてどう思うか。また、全国では一人での学校が開校されたところもある。正田は100人いるのに統合されることについて

- 正田小学校に限らず今後様々な問題が出てくると思う。統廃合計画の見直しをすべきだと思う。これからの統廃合計画を作り市民に示すべきだと考えている。

- 分けて考えるのは当然だが、一年先に統廃合があるので教育委員会はそう言っているのではないか。安心安全からいうと耐震診断は必要だがどの程度の耐震が必要なのかもわからない。

- 広瀬地区は正田小学校区ではないのか。

てどう思うか。個人的な意見でいいので答えて欲しい。

- 南小学校に統合した場合、十分な広さがあると思うか。人数が200人になった時にグラウンドも狭い。
- 南小学校は、中学校サイズで使われてきた校舎である。中学校は3学年、小学校は6学年と全然違う。施設が本当にいいものかどうか疑問がある。通学路も国道を渡るなどの安全も確保できていない。正田は人が集まりやすいところであり、人口から見ても正田に小学校があるほうが良いと思っている。
- 正田の人口は、新見市内で4番目、高齢化

- 統合自体は人数は関係ないと思っている。まちづくり、地域づくり、校舎の老朽化、人数などを総合的に判断する中で進められていくのだと思う。新聞でも、一人だけの学校が再開されたという報道がされていたが、その町や村の考え方である。決して新見市がそうでないとは言わないが、人口減少が進んでいる中で子どもを大切にしようという考えであると思う。学校は、地域が育ててきたものであり、学校を中心に地域が形成されてきた。統廃合は、人数だけでなく地域づくり、街づくりの観点から行うべきだと思っている。
- 街づくりの観点から考えても、最初の統廃合計画から考えても正田地区に小学校があるというのはどういう位置づけなのかを考えなければいけない。多い人数が動くことは不合理でもあるし安全問題や地域の活動にも影響があり、人数の問題だけでなく総合的な考えを持って判断すべきだと思う。27年度中の耐震化のことであるが、これは自治体の事情で新見市が決めたものであり、これが延びても問題はない。
- 大きい学校が小さい学校に行くのは問題があると思うが、今回のように南小学校という新しい学校になって4校が集まるのであれば人数的なことは関係がないと思う。4校が集まって新しい学校を作るというのであれば問題がないと思う。
- 正田小学校を存続させるとなれば耐震化や体育館の建て替えに大きなお金がかかる。南小学校まで2キロの距離なら歩ける距離なので、そこに行ってもいいのではないか。

率は23.4%で若い人がいる地域。若い人はその地域に学校があるかどうか、子どもを育てやすい環境があるかどうかを見る。そういう点から正田地区は伸びていく地域。今後の地域予想ができると思う。2キロが遠いとは思っていないが今は統合のメリットが感じられない。

- ・正田に限らず、地域をどのようにしていくのかという観点が必要だ。統廃合問題に関しても地域の将来構想を描く上でどうするのかを考えなければいけない。
- ・今までの統廃合よりも人数の多い学校という問題がある。話しを聞かせていただいて今後判断したい。

② 地域活動の現状と統合による影響について

正田地域振興会・正田小学校PTA	出席議員の意見
<p>・行政には行政の考えがあると思うが、地域住民と考えが折り合う方向で進めて欲しい。正田には、放課後児童クラブ、わんぱくクラブ、エンジョイ合宿、みんな集まれの会、イルミネーション実行委員会などの地域活動が学校や公民館で行われており、活動がしにくくなる。また、ボランティアの集いは高齢者が学校へ出向き、子どもたちとの交流を図っている。スポーツ少年団は体育館を使用して活動をしている。こういった活動ができなくなるが、教育委員会から団体への話は一切ない。</p> <p>通学路の安全面については、同じ道路を同じ方向からまとまって100人が通学するようになる。同じ通学路を中学生も通学する。正田小学校ではいい環境で子どもを育てており統合のメリットが感じられない。時間をかけて話し合いをして欲しい。</p> <p>・平成4・5年に文科省の規定が変わり、体育館の天井高が足りないということで体育館の建て替えについて申請を出し許可された。平成9年に体育館の建て替えということになったがそれ以降何もしてもらっていないのが非常に残念。</p> <p>・正田小学校へ行くことで困ることはない。統合で南小学校へというのが一番困ること。地域としてしっかり子どもを育てていける環境にある。なぜ今統合なのかという気持ちである。</p>	<p>・正田小学校は避難所になっているのではないか。</p>

- ・避難所は公民館と幼稚園であるが、幼稚園は休園になっているため鍵がかかっているためいざというときには使用できない。公民館だけでは機能が果たせない。
- ・子どものことを一番に考えなければいけない。教育委員会との話し合いの中で子どもにとっていい環境にするためには30人学級が必要であり、大人の社会で勝ち抜くためにはそういった環境で学ばせることがいいと言われているが、本当にいい環境なのか。大きな学校になっていじめが減るとは思えない。本当にいい教育環境なのかどうか。
- ・文科省は大規模学校では目が届かなくなると言っている。
- ・文科省は35人学級の効果は出ていると言っており、財務省と正反対の意見だ。
- ・30人学級にすると2クラスに分かれるだけで、今の正田小学校と変わらない。
- ・教育委員会に対して聞いていることや相談の回答が返ってこない。これでは話が進まない。考えて欲しい。
- ・切磋琢磨というが、新見の人口を増やすための新見らしい教育を考えて欲しい。
- ・統合は教育委員会が言ってきているものであり、地元が要請をしなければ説明に来ないというのは本末転倒。教育委員会のほうから言ってこない以上は話は進まないと思っている。
- ・地域振興会は地域を盛り上げなければいけない。統合ありきで来られると話しのしようがない。

- ・財務省が35人学級を40人学級に戻したほうがいいという考えを示した。これから言うと30人学級といじめの関係はイコールにはならないと思う。

- ・南小学校へ統合したときに30人学級を実施するというのはクラス替えができるということであり、人件費を一人400万円見ているということだが、これは正規職員ではないと思う。統合した場合、教室が足りなくなるではと思っている。通学路の安全確保についても、教育委員会は山彦木材からサンパークの間の歩道拡張を県に求めている。

- ・教育委員会は地域から要請があれば出向いていくと聞いている。

- ・25年6月にアンケートを実施されているが、統合の条件等について皆さんが会

- 統合の条件として、バス通学にして欲しいなどの条件はでている。地域の中では様々な話は出ているが、そういった条件を提示したとしても飲んでもらえないと思う。
- 賛成の人の意見や理由は資料があるので渡すことはできるが、賛成の中でも「耐震がないので統合したほうがいい」「いずれ統合するのなら早いほうがいい」「古い校舎で事故があってからでは遅い」などの意見があり、教育委員会が言っている耐震しないとの言葉を受けての意見である。あきらめから出ている言葉が多い。
- 本日はお忙しい中、ありがとうございました。今後とも子どもたちのためにご支援をいただければと思います。

合で意見を言うことはあるのか。

- 賛成の方もおられると思うので、そういった賛成の方の意見も聞きたいと思っている。その中で最終的な判断をしていきたい。
- 貴重なご意見をいただきました。しっかりと意見交換ができたと思います。ありがとうございました。